

3つのポリシー(短期大学部 未来キャリア英語学科)

<p>建学の理念</p>	<p>「公正な世界観にもとづき時代と社会の要請に応じていく実学」の教授研究を通して、「国際社会に貢献できる豊かな教養を備えた人材」を育成します。</p>
<p>大学の教育理念・方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 短期大学教育を高等教育の「ファーストステージ」として位置づけ、就職や学士課程への編入学へと繋げる「言語運用能力」と幅広い教養や知識、人間性といった「基礎的人間力」の修得をめざします。 ・ 言語を「コミュニケーション・ツール」として位置づけ、より実用的な言語教育を行います。 ・ 言語教育にとどまらず、平和な国際社会の構築に貢献しうる人材として必要な国際教育に力を注ぎ、豊かな人間性に裏付けられたコミュニケーション力を培うための教養教育を重視します。
<p>学科の人材養成目的</p>	<p>英語コミュニケーション力と情報リテラシーの向上を図り、自らのキャリア形成の過程で、未来を展望し柔軟に対応できる実務的な職業人の育成を目的とします。</p>
<p>学位授与の方針(DP)</p>	<p>本学科の人材養成目的を達成するため、次に掲げる知識・技能などを身につけた者に、「短期大学士(キャリア英語)」の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実用的な英語コミュニケーション力と情報リテラシーを修得できるようになる。 2. 多様な現代的課題に他者と協調しながら主体的に取り組み、解決する力を身につけ、未来に向けたキャリア形成ができるようになる。
<p>教育課程の編成・実施の方針(CP)</p>	<p>〔教育課程の編成にかかる基本方針〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・技能などを修得させるために、専門教育科目、教養教育科目を体系的に編成し、授業を開講します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育内容について <ol style="list-style-type: none"> (1) 「English for Social Issues」「English for Global Issues」等により、実用的な英語コミュニケーション力の修得をめざします。 (2) 「K.G.C.ベーシックス」、「情報リテラシー」、「情報処理概論」等により、キャリア形成に活かせる情報リテラシーの修得をめざします。 (3) 「K.G.C.ベーシックス」と「キャリアプランニング」により、卒業後の一人ひとりに合ったキャリア形成を図り、社会の中で自律して自分の役割を果たすことのできる力を養い、多様な業界などで活躍できる専門的知識や技術の獲得をめざします。 2. 教育方法について <ol style="list-style-type: none"> (1) 主体的、協動的に学び、課題解決能力を高めるため、ディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどの教育方法を活用したアクティブ・ラーニング型授業を実施します。 (2) 産業界等と連携した就業体験型Project-based learning(プロジェクト型学習授業)の授業等を通して、主体性、協調性、課題解決能力の向上と未来に向けたキャリア形成を図ります。 (3) クラス担任制により、2年間の学びを通して順次的・発展的に学修が行えるように学修支援ならびに指導を行います。 (4) 本学独自のネットワークにより、海外の企業での研修および語学留学を通して、知識はもとより国際感覚などを身につけます。 3. 学修成果の評価について <p>学修成果の評価は、単位修得の確認、ルーブリック等により行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 修得科目、留学・国際交流プログラムへの参加とそれらへの評価、インターンシップ等の実績と評価、資格取得、クラス担任による面談記録などを含めた2年間の学修記録を活用し、学修成果の到達度をディプロマ・ポリシーに照らし総合的に評価します。 (2) 「K.G.C.学修ルーブリック」により、各学期ごとに学修過程とその成果について振り返りを行い、自分が獲得した能力要素を確認・記録することで、それらの可視化を行います。 (3) 1年次にはTOEICの受験を義務づけ、1年次の英語の学修成果を補完的に検証します。

3つのポリシー(短期大学部 未来キャリア英語学科)

入学者受入れの方針(AP)

本学科の教育上の目的として定める人材を育成するため、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、「求める人材像」を次のとおり定め、高等学校での学習を通しての基礎的な知識として、英語力を中心とする基礎学力などをもとに選抜を行い、入学者を受け入れます。

1. 求める人材像について

高等学校までの学習・活動を通して、論理的に自分の意見を発信でき、とりわけ「英語」の学習において、「聞く・話す・読む・書く」の4技能の基礎的な内容を身につけた上で、

- (1) 実用的な英語コミュニケーション力と情報リテラシーを向上させるとともに、幅広い教養を身につけ、産業界で活躍する強い意志を持つ人
- (2) 社会人としてのコミュニケーション能力やマナーの重要性を理解し、自律した社会人およびリーダーをめざすなど自身のキャリア形成に強い意志を持つ人

2. 評価方法について

上記のような学生を選抜するため、形態ごとに以下のような試験を行い、本学科で学修するための基盤となる学力などについて評価します。

(1) 一般選抜

ア. 一般入試

- ① 1科目型:
個別学力検査(外国語)により評価します。[後期]
- ② 2科目型:
個別学力検査(外国語、国語)により評価します。[前期: A方式]
- ③ 3科目型:
個別学力検査(外国語)と大学入学共通テスト(国語、選択科目)により評価します。[前期: 共通テストプラス方式]

イ. 大学入学共通テスト利用入試

- ① 2科目型:
大学入学共通テスト(英語、国語の2科目)の得点により評価します。[前期/後期]
- ② 5科目型:
大学入学共通テスト(英語、国語、地理歴史・公民、数学、理科の5科目)の得点により評価します。[前期]

(2) 学校推薦型選抜

ア. 公募制推薦入試

基礎学力検査として英語を課し、調査書等、学校長推薦書を総合して評価します。

イ. 指定校制推薦入試

書類選考、口頭試問(面接)を総合して評価します。

(3) 特別型選抜

ア. 自己推薦入試

書類選考、口頭試問(面接)を総合して評価します。

イ. 社会人入試

書類選考、筆記試験(英語、小論文)、口頭試問(面接)を総合して評価します。

ウ. 帰国生徒入試

筆記試験(英語、小論文)、口頭試問(面接)を総合して評価します。

2024年4月1日施行(2024年3月1日制定)